

令和7年度 沖縄県学力到達度調査 結果分析・指導改善のポイント

–児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて–

本資料の活用について

- (1) 本県における児童生徒の学習の状況を速やかに把握し、結果分析を通して、課題のみられる内容項目の学習指導において、工夫・改善に役立てる。
- (2) 本県のめざす授業「他者と関わりながら、課題の解決に向かい『問い合わせ』が生まれる授業」に向けて、学習指導の充実に役立てる。
- (3) 本県の学力向上推進施策『「自立した学習者」育成プロジェクト』について理解を深め、校内における学力向上の推進に役立てる。



– 「自立した学習者」育成プロジェクト 令和7年度の共通実践事項(取組の重点) –
◎児童生徒の変容につながる PDCAサイクルの確立



調査結果の活用(令和7年度全国学力・学習状況調査 学校質問調査)

全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。【小学校(83)・中学校(83)】



令和7年度 沖縄県学力到達度調査【概要】

1 調査の目的

- (1) 児童生徒が自らの学力の到達状況を把握し、今後の学習や学習改善の充実を図る。
- (2) 児童生徒一人一人の当該学年までの学力の到達状況を把握し、各学校における授業改善の充実を図る。
- (3) 教科分析を通して、自校の落ち込みのある領域を把握し、習得状況を揃える取組に生かす。

2 問題作成の基本的な考え方

- (1) 調査問題等については、沖縄県教育庁義務教育課が作成する。
- (2) 調査問題は、次の内容を踏まえ作成する。

- ① 小・中学校ともに、各教科における学習指導要領の趣旨を踏まえた客観性のあるものとし、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を区分せず、一体的にした問題構成とする。
- ② 全国学力・学習状況調査等で見られた課題となっている内容を踏まえた問題も出題する。
- ③ 中学校においては、「県立高等学校入学者選抜学力検査(高校入試)」等で課題となっている内容を踏まえた類似問題や記述式問題も出題する。

3 調査実施期間及び調査対象

- (1) 小学校:令和7年11月13日(木)～12月11日(木) ※Webシステムへの入力期間も含む
中学校:令和7年11月14日(金)～12月12日(金) ※Webシステムへの入力期間も含む
- (2) 公立の小学校第5～6学年 ※原則として全児童
公立・県立の中学校第1～3学年 ※原則として全生徒
※① 国立(附属学校)、私立及び県立特別支援学校(小学部・中学部)については任意参加(希望)
※② 中学校第3学年においては、Webシステムへの入力を求めない。

4 調査内容(調査教科等)

(1) 小学校調査

対象学年	実施教科	実施時間
第5学年	国語・算数	40分
第6学年	国語・算数	40分

(2) 中学校調査

対象学年	実施教科	実施時間
第1学年	数学・英語	45分
第2学年	国語・数学・英語	45分
第3学年	国語・社会・数学・理科・英語	20分

(3) 英語スピーキング力調査

中学校第1・2学年(1人あたり2～3分程度)

※英語スピーキング力調査結果の分析については、本資料より除く。

5 各教科における結果(自校採点)

●令和7年度 自校採点結果【沖縄県学力向上Webシステムより】※令和7年12月12日現在

各教科等		児童生徒数 (学校数)	正答数	正答率	無解答率	正答数30% 未満の割合
小5	国語	14,242人 (250校)	6.3/15問	42.2%	16.9%	33.3%
	算数	14,304人 (250校)	8.5/16問	53.0%	7.8%	17.6%
小6	国語	14,581人 (247校)	7.7/15問	51.3%	9.7%	18.2%
	算数	14,589人 (247校)	5.4/17問	31.6%	13.6%	59.2%
中1	数学	13,883人 (140校)	7.5/18問	41.7%	14.0%	38.2%
	英語	13,776人 (141校)	11.6/27問	43.0%	5.3%	34.7%
中2	国語	13,679人 (140校)	6.3/14問	45.3%	11.1%	27.7%
	数学	13,621人 (140校)	6.3/18問	35.1%	16.4%	49.2%
	英語	13,499人 (140校)	11.1/29問	38.2%	10.7%	39.4%

6 調査結果の概要(課題)

概要(課題)については、小学校第5学年～中学校第2学年の内容とし、中学校第3学年は割愛する。なお、詳細については、各教科の結果分析等(P8以降)を参照すること。

◆小学校第5学年

- ・国語では、物語の全体像を捉え、理解したことに基づいて自分の考えをまとめること課題が見られた。
- ・算数では、単位分数をもとにした数の大きさや、複数の情報を組み合わせて論理的に考察することに課題が見られた。

◆小学校第6学年

- ・国語では、目的に応じて、事実と感想、意見とを区別して文章に合う形で自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。
- ・算数では、数量の変化や関係を段階的に捉え、考えを整理・説明することに課題が見られた。

◆中学校第1学年

- ・数学では、連続する2つの偶数を文字式で正しく表現することに課題が見られた。
- ・英語では、会話が成り立つように、数を尋ねる疑問詞を用い、正確な疑問文を書くことに課題がある。

◆中学校第2学年

- ・国語では、複数の資料を読み取り、自分の経験や知識と関連させて考えや意見を書くことに課題が見られた。
- ・数学では、文字式を用いて偶数や奇数の性質を一般化することに課題が見られた。
- ・英語では、社会的な話題について読んだ内容の要点を捉え、その内容について考えと理由を書くことに課題がある。

各教科の調査結果から見られる共通の課題

学力下位層(正答数 30%未満の児童生徒)の割合

(1) 正答数 30%未満の児童生徒の割合(過去調査との経年比較)

各学年・各教科	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
小学 5 年生【国語】	7.7%	15.7%↑	33.3%↑
小学 5 年生【算数】	7.3%	37.4%↑	17.6%↓
小学 6 年生【国語】	6.1%	3.7%↓	18.2%↑
小学 6 年生【算数】	22.6%	12.7%↓	59.2%↑
中学 1 年生【数学】	40.6%	62.4%↑	38.2%↓
中学 1 年生【英語】	40.3%	22.0%↓	34.7%↑
中学 2 年生【国語】	21.8%	17.9%↓	27.7%↑
中学 2 年生【数学】	28.2%	63.2%↑	49.2%↓
中学 2 年生【英語】	21.0%	20.0%↓	39.4%↑

(2) 正答数 0 問の児童生徒の人数と割合(令和 7 年度調査)

各学年・各教科	国語	算数・数学	英語
小学 5 年生	492 人(3.5%)	286 人(2.0%)	
小学 6 年生	129 人(0.9%)	824 人(5.6%)	
中学 1 年生		756 人(5.4%)	50 人(0.4%)
中学 2 年生	297 人(2.2%)	536 人(3.9%)	98 人(0.7%)

課題

経年比較では、調査問題の難易度や当該児童生徒(同集団)が違うため、単純に比較はできないが、実際には、各教科において、正答数 30%未満の児童生徒が多数見られ、また、教科によっては、正答数 0 問の児童生徒も多数見られる。各教科の授業において、学力下位層の児童生徒に向けた指導や支援を行っていく必要がある。

具体的な支援と手立て

- ・調査結果から見られた課題や児童生徒の誤答やつまずきを把握し、各教科の授業に生かす。
- ・授業において、既習内容の確認及び定着の弱い内容についての学び直し等の機会を設ける。
- ・課題の見られた問題については、次年度の単元の指導と評価の計画に位置付け、重点的に指導する。

- ★学力下位層の児童生徒の指導・支援に向け、学校全体で「授業改善 4 つの取組」を推進する。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な取組を通して、学習内容の深い理解や定着を図る。
 - 「学習基盤としての ICT(1 人 1 台端末等)とクラウド」の活用を通して、探究のサイクルを意識した授業や、AI ドリル等を活用した個別指導・支援の充実を図る。
 - 「指導と評価の一体化」の実現に向け、児童生徒の学習状況の見取りとフィードバックの充実を図る。
 - 「自学自習力」を育む取組の充実に向け、授業と家庭学習をつなぐ「学習サイクル」を確立する。

令和7年度 各教科の重点事項 【沖縄県版】

国語科(小中共通)

①資質・能力の育成に向けた言語活動の設定と充実

- ◇日常生活や社会生活と関連付けた課題解決的な言語活動の設定
児童生徒にとって「取り組みたい」と気持ちが高まる必要性のある言語活動になっているか、育成をめざす資質・能力に適した言語活動になっているか、学習指導要領と照らし合わせながら単元を構想する中で、言語活動を適切に設定する。
- ◇言葉による見方・考え方を働きかけた主体的な学習活動の展開
設定した言語活動のどの場面で、児童生徒が資質・能力を発揮して粘り強く学習に取り組んだり、学習を調整したりするのかを明確にする。その際、児童生徒が言葉に着目して自らの学びを創造していくような手立てを講じる。

②児童生徒が自らの学びを把握できる「指導と評価の一体化」の実現

- ◇「Bと判断する児童生徒の姿」の明確化
単元で育成を目指す資質・能力に関する「Bと判断する状況」を具体的に想定する。その際、設定した言語活動に教師も取り組み、モデル文等を作成するなど、目指す児童生徒の姿をより明確にしたり、指導のポイントを確認したりすることも重要である。
- ◇評価計画の作成および児童生徒との共有単元のどの場面で、どのような方法で、どの力を評価するのか、評価計画を作成する。評価計画を児童生徒と共有することや、単元の途中で評価をフィードバックし、児童生徒の学習改善に生かす。

本県の●成果と▲課題

- 全国児童生徒質問調査において、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が高い。
- ▲全国児童生徒質問調査において、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が低い。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 国語の授業で学んでいること、日常生活や社会生活との繋がりを意識し、主体的に学習に取組むことができる。
- 見通しをもって学習に取組み、多様な他者と協働しながら「言葉による見方・考え方」を働きかけ、粘り強く課題に取組むことができる。

社会科(小中共通)

①社会的な見方・考え方を働きさせて、学びを実感できる学習活動の充実

- ◇社会的事象の意味や意義をより深く理解するため、様々な視点や方法を用いて調べた事実を、相互に関連付けて考える場面を設定する。
- ◇単元のまとまりの中で、学習状況を適切に評価し、学びを振り返る場面を設定する。

本県の●成果と▲課題

- 前時の振り返りから、新たな問いを次の学習につなげ、調べたり考えたりする学習が展開されている。
- ▲単元のまとまりを通して学びを実感できる学習活動の充実に向けて、評価の場面や方法を工夫する必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 社会的な見方・考え方を働きさせて、社会的事象の意味や意義の理解を深め、自分自身の学びを実感することができる。
- よりよい社会の在り方について広い視野から考え、協働して解決しようとする態度が身についている。

算数科

①数学的活動を重視した単元及び授業づくり

- ◇具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動の充実を図る。
- ◇自分の考えを数学的に表現し処理したり、他者の考えから学んだり、学習の過程と成果を振り返り、見直したりする学習活動の充実を図る。

②「子供を主語」にした主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ◇子供を主語にした、単元デザイン(目指す子供の姿、選択できる学習方法、評価の内容・方法など)を教師と子供で計画・見直しを図る。
- ◇単元で育成を目指す資質・能力に関する「Bと判定する状況」だけでなく、子供のつまずきやその手立てなど子供の具体的な姿を想定した指導と評価の一体化を図る。

本県の●成果と▲課題

- 全国学力学習状況調査の児童質問紙において、「算数の学習は将来、社会に出たとき役立つ」と肯定的に回答した児童の割合が高い。
- ▲全国学力学習状況調査の児童質問紙において「算数の学習は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合が低くなっていることから、算数の学習が楽しいと実感できる授業づくりが課題である。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決ができる。
- 「見方・考え方」を働きかせながら、知識を関連付けてより深く理解したり、他者との対話や協働を通して自らの考えを広げ深めたりすることができる。

数学科

①「数学的活動(問題発見・解決の過程)」のサイクル(日常生活や社会の事象、数学の事象)を意識した単元及び授業づくり

- ◇問題発見・解決の過程の2つのサイクルを意識した単元及び授業づくりを通して、系統的に数学的に考える資質・能力である「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。
- ◇単元や領域において、数学的な見方・考え方を働きかせ、問題発見・解決の過程を意識した習得・活用・探究の学びの過程を通して、「学習の基盤となる問題発見・解決能力」を育成するための取組を充実させる。

②「生徒を主語」にした主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ◇指導と評価の一体化を目指すとともに、各種学力調査等から見られる「生徒のつまずきや誤答」を把握・分析し、授業改善につなげる(生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりへ)。
- ◇1単位の授業においては、問題発見・解決に向けて、見通しをもつ時間を十分に設定する等、生徒一人一人が自分なりの考えをもつことができるような工夫を取り入れる(生徒に委ねる場面の設定等)。また、学び合いの場面では、生徒どうしの協働的な学びを促し、互いの考えを説明したり、既習事項と結び付けたりする等、考えを広げたり、深めたりできるような学習活動を取り入れる。

本県の●成果と▲課題

- 生徒質問調査より「数学の勉強は大切である」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と肯定的に回答した生徒の割合が高い。
- ▲各種調査結果等から基礎的・基本的な知識及び技能に課題が見られる。また、数学的な表現を用いた説明など記述式の問題で無解答が多く自己調整しながら粘り強く考えることに課題が見られる。
- ▲与えられた課題には取り組むが、新たな課題や問題に自ら進んで探究的に取り組むことが弱い。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 問題発見・解決に向けて、主体的に問題に取り組み、粘り強く考え、深く学ぶことができる。
- 問題発見・解決に向けて、他者との交流を通して、自分の考え方や学習を調整し、次の学びにつなげたり、広げたりすることができる。

理科(小中共通)

①問題解決(探究)の過程を重視した学習活動の充実

児童生徒が理科の見方・考え方を働きかせ、主に取り組むために

- 課題の「発見→探究→解決」の流れを重視する。
- 各学年で重視する問題解決(探究)の過程を単元構想に設定する。

②日常生活とのつながりが意識できる体験的な学習の充実

児童生徒が学ぶことの意義や有用性を実感するために

- 身近な自然や現象との結びつきから課題を発見させるよう発問を工夫する。
- 獲得した知識・技能を活用し、実験観察を通して問題を解決していく過程を充実させる。

③学びに生かす評価の充実～指導と評価の一体化～

児童生徒が自身の成長を実感し、教師の授業改善につなげるために

- 自身の変容が実感できる振り返りの場面を設定する。
- 次の授業に活かす形成的評価などの「指導に活かす評価」を充実させる。

本県の●成果と▲課題

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践が図られ、課題提示や学習形態の工夫、ICTの活用が推進されている。
- ▲科学的に探究するために、各学年で重視する問題解決(探究)の学習過程を踏まえた授業実践。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 自然の事物・現象から問題を見出し、予想や仮説を立て、見通しをもって問題・課題解決に向かうことができる。
- 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぶことができる。

外国語活動・外国語(英語)

①コミュニケーションを図る資質・能力の育成に向けた指導の充実

- ◇コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、相手意識をもち、適切な語彙や表現を選択しながら、話したり書いたりして伝え合うための指導を行う(言語面及び内容面の指導の充実)
- ◇ICTの積極的な活用及びALTの効果的な参画により、児童生徒が互いの考えや思いを伝え合ったり、適切なフィードバックを得たりすることができるようとする。

本県の●成果と▲課題

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じ、伝えたい内容や必要な表現を自ら考えて伝える言語活動が展開されている。
- ▲意図的に中間指導の場面を設定し、視点を明確にした上で、ねらいに即した適切な支援やフィードバックを行う必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、相手意識をもって伝えたい内容や必要な表現を自分で考え、適切に伝え合うことができる。
- 言語面及び内容面から自身の言語使用を振り返り、目的達成に向けて改善点を考え、主体的に言語活動に取り組むことができる。